

2010年5月7日

# プロジェクト報告書

【締切:プロジェクト終了後1か月以内。もしくは 2010年4月30日】

団体名 **自立援助ホーム あすなろ荘**

## ▼報告書の扱い、および記入にあたっての注意点

この報告書(精算報告書以外)は、ホームページなどで公開する予定ですので、広く読まれることを想定してご記入ください。また、編集段階で、表記・表現等を事務局で編集する場合がありますので、あらかじめご了承ください。語尾の表現が「です・ます」調をお願いします。報告書に掲載するため活動の内容がよくわかる写真(2枚程度。写真の肖像権問題がないものの提出をお願い致します)を添付して下さい。

### 1. プロジェクト名

**スタッフ**

**自立援助ホームあすなろ荘の研修・学習会参加のための費用**

### 2. プロジェクトの目的とその背景 300文字まで

※応募申請書に記載のもので可。

自立援助ホームのスタッフには、社会的養護のもと自立を余儀なくされる子どもたちへの援助者としての高い資質が求められるにも関わらず、国や都府からの補助金だけでは研修会に参加するための十分な資金を捻出することが出来ないのが現状である。この度申請する助成金を研修参加費として当てさせて頂くことでスタッフの資質向上につながることを目的とする。

### 3. プロジェクトの内容 300文字まで

※当初予定と変更がない場合は、応募申請書に記載のもので可。

自立援助ホームに入所に至る青年たちは、子ども時代に受けた虐待のトラウマや深い心の傷を負って何とか生きぬいてきた子どもたちはかりである。自立援助ホームはそういった青年たちにたたく寝る場所や食べものを提供するだけではなく、皮膚から自らの生いに向きあいこれからの人生を生きていくための適切な心のケア(治療的養育)をする場所でもある。またその機能を果たす上で自立援助ホームの存在意義は無いと思われない。青年たちの命と心を支援していくためには青年たちと共に生活をする私たち援助者として最善の機能を持つたければ、<sup>自らもスタッフが向上していくための入念な勉強が必要</sup>

### 4. プロジェクト実施にあたっての工夫点とその効果 300文字まで

・今回参加費が高額で参加できなかった研修や、遠方で開催された研修の大会など、全スタッフ(4名)が勤務の調剤をしながら、まんべんなく参加することが出来ました。研修で学んだことを生かして子どもたちへの支援に反映することが出来ました。

### 5. 全体的所感、終了しての感想など 300文字まで

「お金の心配をせず」学ぶことを学ぶ土壌があったことで、研修参加員・支援者としての向上心がより研ぎ磨かれました。  
私共の仕事は、常に学び続けることは必須であり、学び続けることで支援技術も向上し、より適切な支援を子どもたちに提供することにつながることを実感いたしました。本助成で得た成果を都府国にも伝えたい。補助金のなか

### 6. 参考資料

研修費の研可予算もくじこまれていくことを要望している

支援対象プロジェクトで作成したチラシ、パンフレットやマスコミで紹介された記事等は現物またはコピー、活動風景の写真を参考資料として提供してください。

参考資料あり・特になし

# 自立援助ホーム「あすなる荘」19歳寮生

# 進学 の夢 かなったよ

家庭で暮らせない15歳以上の未成年者を受け入れる自立援助ホーム「あすなる荘」(東京都清瀬市)で今春、1988年の設立以来初めて進学者が出た。自立援助ホームは児童福祉法に基づく児童福祉施設で全国に約60カ所あるが、就労支援が主な目的のため、進学は極めてまれだ。関係者は「何の支えもない子どもの将来が安定するよう、資格取得を支援したい」と基金を設立した。【山崎友記子、写真も】

## 基金へ寄付呼び掛け

「進学できるなんて、で育ち、高校2年で母思ってもみなかった。親を亡くした。児童養護施設に入ったが、高技術を身につけ、人脈も作りたい」。塚原莉紗さん(19)は今月から、飲食店で働きながら、都内のファッション系専門学校に通い、ウエディングプランナーを目指す。4日の入学式にはあすなる荘のスタッフが親代わりで参列、晴れ姿の塚原さんに何度もシャッターを切った。

塚原さんは母子家庭で、17歳であすなる荘に入寮。スタッフに「夢は？」と聞かれ、あきらめた思いを口にしてみただった純白のウエディングドレス。「ブライドル関係の仕事がしたい」。スタッフは専門学校への進学をすす

## 設立以来初「婚礼の仕事したい」

め、資料集めや説明会に参加のために奔走した。その姿に心を打たれ、受験に挑戦しよう

と決めたという。自立援助ホームは高

校中退で児童養護施設を退所したり虐待された子たちを受け入れ、義務教育修了後の「最後のとりで」と呼ばれる。寮費や生活費は自費で、例が後を絶たない。塚原さんが進学を果たしたのはスタッフの支援に加え、ホームへの寄付や民間の支援金があったからだ。今春はもう一人の寮生も専門学校に進み、あすなる荘では資格取得を支援する「あすなる基金」を設立した。

恒松大輔ホーム長は「一人でも多くの子の夢をかなえたい」と寄付を呼びかけている。問い合わせはあすなる荘(☎042・492・4632)。



専門学校の入学式を迎え、駆けつけたあすなる荘のスタッフとともに、笑顔を見せる塚原莉紗さん(右) // 東京都渋谷区で4日